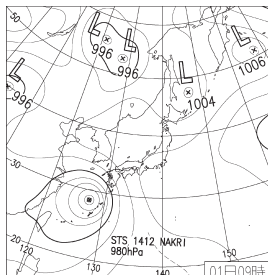


日々の天気図

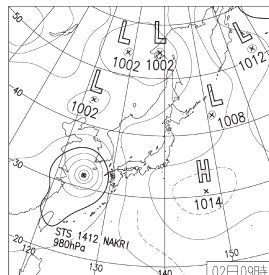
— No. 151

2014年 8月

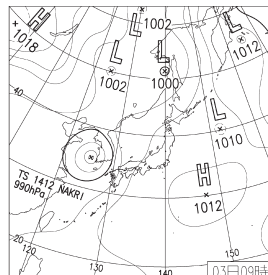
- ・7月30日から8月26日にかけて各地で発生した大雨について「平成26年8月豪雨」と命名。20日には広島市で大規模な土砂災害発生。
- ・ハリケーンから変わった台風第13号の他は8月中に台風の発生はなく、8月の台風発生数1個は1951年の統計開始以来初。
(気象庁予報部予報課)



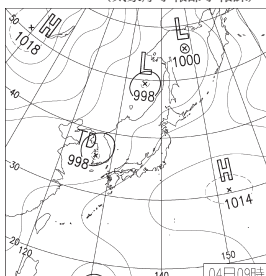
1日(金)台風 東シナ海を北上
大型の台風第12号が東シナ海を北上。中心の東側は広範囲で雨風強く、鹿児島県奄美市笠利で最大瞬間風速38.1 m/s、徳島県那賀町木頭出原で76.5 mm/1hの非常に激しい雨。



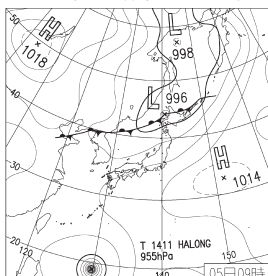
2日(土)台風 ゆっくり北上
台風第12号の雨雲がかかり、九州、四国の太平洋側を中心に大雨。四国では徳島県海陽で87 mm/1hなど3地点で猛烈な雨。日降水量は高知県仁淀川町鳥形山で545.5 mm。



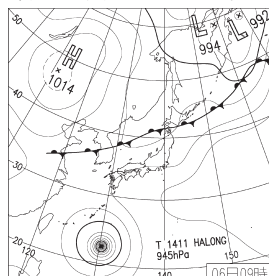
3日(日)四国で大雨続く
台風にかき込む暖かく湿った気流により東海以西で雨。高知県本山で492 mm、佐川で491.5 mmと日降水量史上1位を更新するなど、四国で大雨持続。鹿児島県口永良部島で噴火。



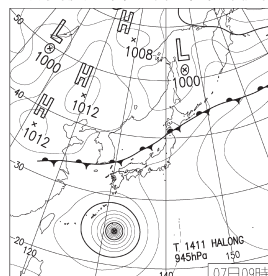
4日(月)関東以北で高温
四国は引き続き大雨で、高知県では高知市62 mm/1h、香美市繁藤で日降水量317 mm。最高気温は関東～北日本で平年より高く、北海道紋別市南が丘町で平年より9.3℃高い32.4℃。



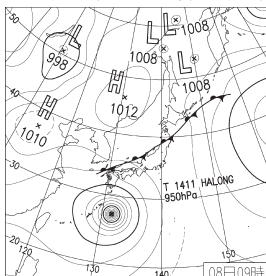
5日(火)群馬県館林で39.5℃
低気圧や前線により北海道で大雨。北海道美深町西町で史上1位更新の日降水量115.5 mm。関東、北陸、東北南部で猛暑。栃木県1地点、福島県4地点で最高気温史上1位を更新。



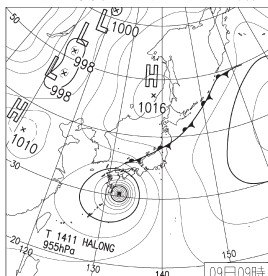
6日(水)山口、広島県など大雨
南からの湿った空気の流入で山口、広島県中心に大雨。山口県岩国市川西71 mm/1hなど、3地点で史上1位記録を更新。関東や東北南部は引き続き猛暑。大阪府、京都府で震度4。



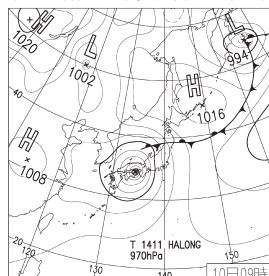
7日(木)大東島地方大荒れ
台風第11号により沖縄・奄美は断続的に雨。沖縄県南大東空港、北大東空港で共に最大瞬間風速47.3 m/s。西～北日本は前線や湿った気流による雨。島根県安来市伯太57.5 mm/1h。



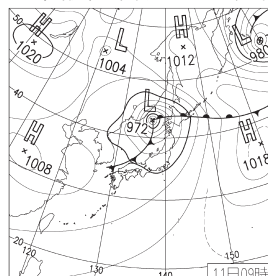
8日(金)全国的に雨
台風第11号は奄美の東を北上。前線や台風の影で全国的に曇りや雨。石川県羽咋で史上1位の70.5 mm/1h、日降水量198 mm。鹿児島県西之表市西之表で最大瞬間風速35.4 m/s。



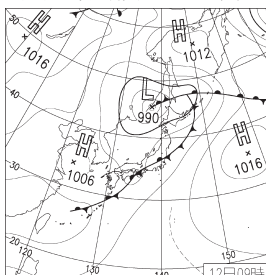
9日(土)三重県に大雨特別警報
台風第11号の影響で、高知県、三重県で大雨。三重県尾鷲で85 mm/1hの猛烈な雨。高知県津野町船戸で日降水量528 mm。三重県中心に5地点で日降水量の観測史上1位を更新。



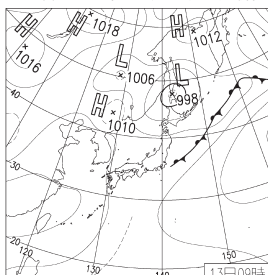
10日(日)台風第11号 四国に上陸
台風第11号は高知県安芸市付近に上陸し、兵庫県に再上陸後日本海へ。高知県馬路村魚梁瀬で8月1位を更新の80.5 mm/1h。室戸岬で最大瞬間風速52.5 m/s。青森県で震度5弱。



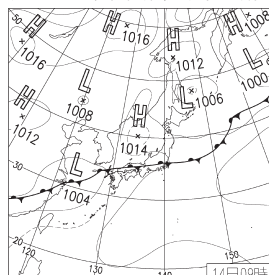
11日(月)北海道で大雨
台風第11号は日本海北部で温帯低気圧に。北海道は大雨となり、利尻空港で49.5 mm/1h、知内で43 mm/1h、釧路空港で日降水量159.5 mmなど、各地で観測史上1位を更新。



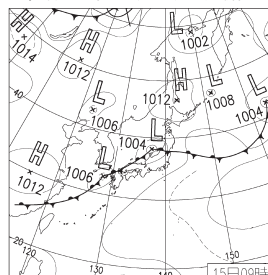
12日(火)本州低温
沖縄～東北は前線の影響で雨の所多い。北海道は概ね晴れたが、南西からの湿った気流により一部で雨も。雨の降り続いた甲信地方を中心に、最高気温が9月下旬～10月上旬並。



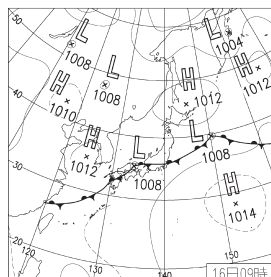
13日(水)全国的にぐずつく
沖縄・奄美は南からの湿った気流により雨。西日本～東北は中国大陸からのびる雲域に次第に覆われ所々で雨。北海道は低気圧の影響で曇りや雨。京都市、金沢市でサルスベリ開花。



14日(木)高知県で猛烈な雨
沖縄・奄美は気圧の谷、西～東日本は前線の影響で雨や雷雨。高知県須崎で88.5 mm/1h、8月の1位を更新。北日本も前線や気圧の谷の影響で曇りの所が多く、一部で雨。

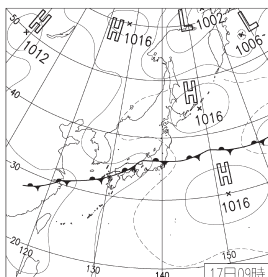


15日(金)西日本で大雨
前線に向かって流入する暖かく湿った空気の影で大気の状態が不安定となり、関東と北海道を除く広範囲で雨。西日本は大雨となり、長崎県平戸で79.5 mm/1hの非常に激しい雨。



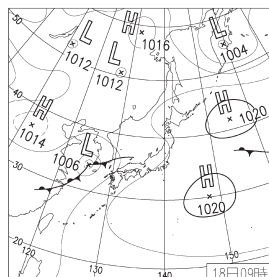
16日(土)西日本で大雨続く

前線に沿って西日本～東北の広い範囲で雨。京都市中京区で87.5mm/1hの猛烈な雨。兵庫県三田で66mm/1h、京都市京北で日降水量210mmなど、観測史上1位を更新。



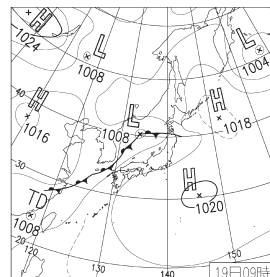
17日(日)前線による大雨続く

西日本～東北は引き続き前線の影響で雨。京都府福知山市荒河62mm/1hなど所々で非常に激しい雨。岐阜県高山の57mm/1hは観測史上1位、日降水量232mmは8月の1位。



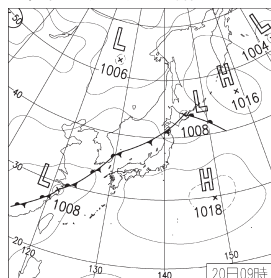
18日(月)大気不安定

九州、四国、中国と北日本は高気圧の縁を回る湿った空気が流入し曇りや雨。近畿～東日本は高気圧圏内で晴れ。午後は九州～東北南部の所々で激しい雷雨。津市白山で66mm/1h。



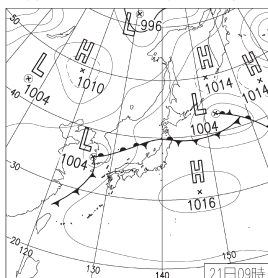
19日(火)九州と北海道で大雨

九州は南から暖かく湿った空気が流入した影響により所々で激しい雨。午後は広い範囲で雷雨。北海道は低気圧の接近により大雨。根室半島南東沖の地震により北海道で震度4。



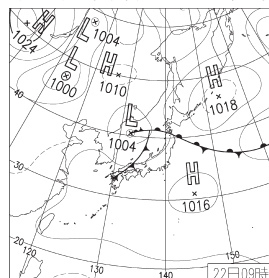
20日(水)広島で土砂災害

前線や前線に流れ込む湿った気流により西日本、東北で大雨。広島市内は一部地域で雨が強まり、安佐北区三入で101mm/1h、史上1位を更新。長崎県西海市大瀬戸でも93.5mm/1h。



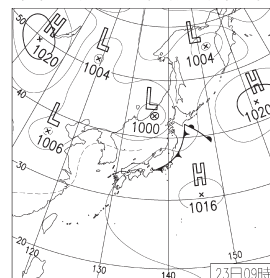
21日(木)九州北部と東北で大雨

湿った空気が流れ込んだ九州北部と前線の影響を受けた東北で大雨。岩手県葛巻で日降水量112.5mm、8月の1位。西～東日本は晴れて気温が上昇。真夏日567地点(全国の61%)。



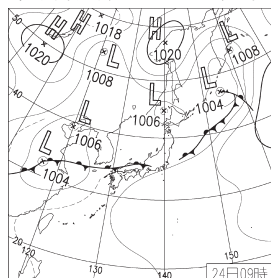
22日(金)西～北日本で大雨

低気圧や前線により西～北日本の広い範囲で雷を伴う大雨。福岡県大宰府で98.5mm/1hの猛烈な雨。愛媛県今治市大三島の59mm/1h、北海道松前の日降水量173mmは史上1位。



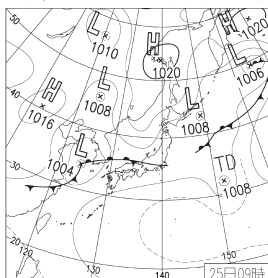
23日(土)変わりやすい天気

西～北日本は上空寒気の影響で大気の状態が不安定。晴れと雷雨が混在する変わりやすい天気。滋賀県高島市朽木平良で79.5mm/1h。佐賀市で平年より28日遅いヒグラシ初鳴。



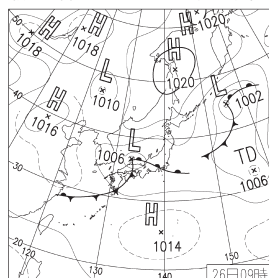
24日(日)北海道で大雨

低気圧と上空の寒気により北海道で大雨。礼文町香深で日降水量160mm。西日本では近畿を中心に前線と湿った空気の影響で非常に激しい雨。大阪府茨木で68.5mm/1h。



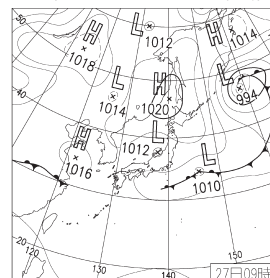
25日(月)前線が本州に停滞

前線の南側は日中晴れたが、午後は大気の状態が不安定となり各地で雷雨。茨城県稲敷市江戸崎で44mm/1h。前線の北側はオホーツク海の高気圧からの冷気により曇りの多い天気。



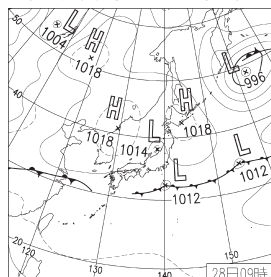
26日(火)北陸で大雨

前線を伴った低気圧が山陰沖から東進。北陸を中心に大雨。西日本は、寒冷前線通過後に日本海側を除いて晴れ気温上昇。沖縄～東海の太平洋側・内陸を中心に269地点で真夏日。



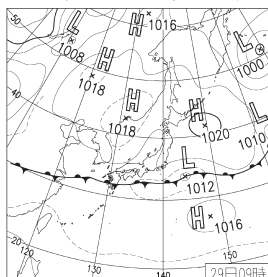
27日(水)関東～東北南部で低温

本州付近は、北陸の低気圧や東からの湿った気流の影響などで曇りや雨の所が多い。関東～東北南部は最高気温が10月上旬～中旬並。沖縄～九州と北海道は高気圧の圏内で概ね晴れ。



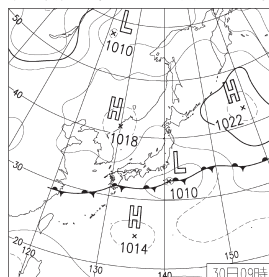
28日(木)西日本～東北ぐずつく

西日本～東北南部は、前線の北側の雲塊に覆われ曇りや雨。沖縄・奄美と北海道は高気圧に覆われ晴れ。九州～東北は気温が上がらず。東京の最高気温は平年より7.6℃低い23℃。



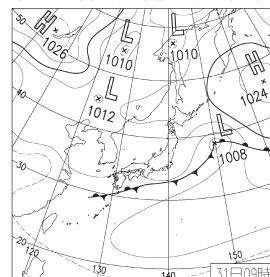
29日(金)ぐずついた天気続く

前線や気圧の谷の影響で西日本～東北は曇りや雨の所が多く。西日本では最高気温が9月下旬～10月中旬並。4時過ぎに宮崎、熊本県で震度4、18時過ぎに茨城県で震度4。



30日(土)晴れ間戻る

日中は広く晴れて大気の状態が不安定となり、前線に近い西～北日本の太平洋側や本州の山間部など広範囲で局地的な雨。新潟県糸魚川市能生で53mm/1hの非常に激しい雨。



31日(日)概ね晴れ

前線に近い沖縄・奄美は所々で雷雨。西日本～東北は概ね晴れたが午後は所々で雨。高気圧が張り出した北海道は安定した晴れ。父島で最高気温が33.5℃となり8月の1位を更新。



今月のひまわり画像—2014年 8 月

モンスーンジャイア (Monsoon Gyre)

第1図は2014年8月1日12時(日本時間)、第2図は2日12時の台風第12号の可視画像である。

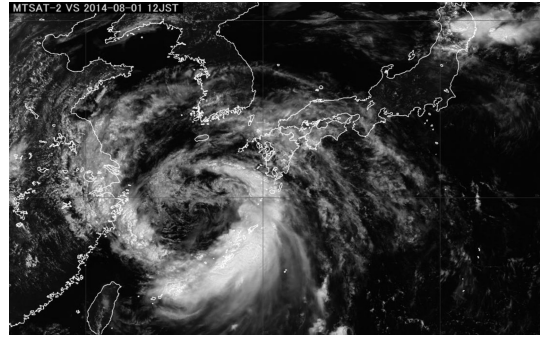
台風第12号は7月28日15時にフィリピンの東海上で発生したものの、発生初期から台風中心付近の雲域は通常の台風のように発達をせず、中心の東側～南側の離れた領域で対流雲が発達すると共に強風域が観測された。8月1日09時になると中心気圧980 hPa、最大風速25 m/s (55 kt) にまで発達したが、引き続き中心付近には活発な対流雲の発生は見られなかった(第1, 2図)。

通常台風は、潜熱をエネルギー源として、積乱雲の持続的な発生、上昇流による上層の暖気核の形成、地上付近の気圧の低下、周辺からの水蒸気の流入及び低気圧性循環の形成(強化)、等を繰り返して発達していくが、このように中心付近の雲域が組織化せず、周辺部から発達する台風は珍しく、最近では平成23年台風第12号がよく似た形状であった(第3図)。

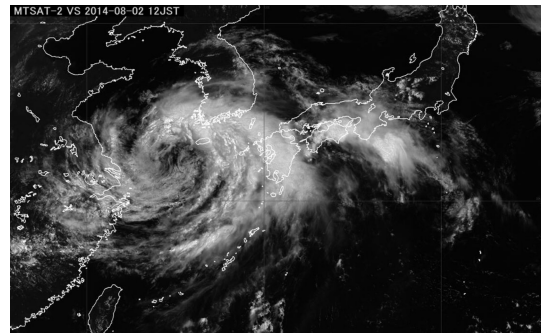
日本ではこのような台風について特に分類はしていないが、アメリカ気象学会(American Meteorological Society)の気象辞典(Glossary of Meteorology)は、このような擾乱をモンスーンジャイア(Monsoon Gyre)として分類し、その定義を「北太平洋西部の夏季のモンスーン循環で、①非常に大規模な(最も外側の等圧線は直径2500 kmに達する)ほぼ円形の地上低気圧の渦で、②雲バンドは地上低気圧中心又は渦中心から離れた東縁部から南縁部に存在し、③その寿命は比較的長い(約2週間)」としている。

通常寿命が長い台風は移動速度が遅く(台風を動かす上空の風が弱く)、今回の台風第12号も平成23年台風第12号と同様にゆっくりとした速度で日本に接近・上陸・通過したため、高知県では72時間降水量が1000 mmを超えた所があり、高知・徳島両県の合計で浸水家屋3500棟以上となる被害もたらされた。

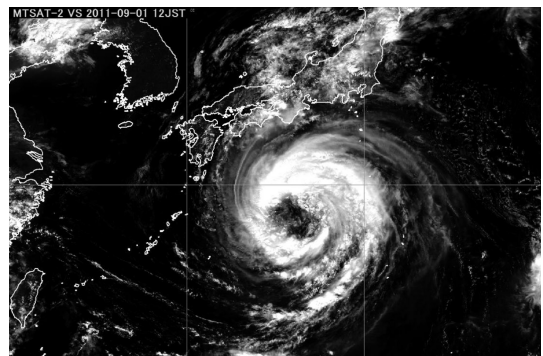
(気象庁予報部予報課 西村修司)



第1図 2014年8月1日12時(日本時間):平成26年台風第12号の可視画像。



第2図 2014年8月2日12時(日本時間):平成26年台風第12号の可視画像。



第3図 2011年9月1日12時(日本時間):平成23年台風第12号の可視画像。